

【INDEX】

◆視点

・農林技術研究所のホームページをご活用下さい

◆研究情報

・ワサビ育苗における暑熱対策
・一番茶生育期での有機液肥施用による有機てん茶収量・品質の改善

視点

本所(企画調整部)

農林技術研究所のホームページをご活用下さい 企画調整部長 土井 誠

静岡県農林技術研究所 NEWS をご覧頂き大変ありがとうございます。当研究所では、「静岡県の試験研究機関に係る基本戦略」に基づき、生産現場の研究要望や県政の政策的課題の解決のため様々な研究に取り組んでおります。また、得られた研究成果が生産現場や県民の皆様の役に立てるように、成果の発信と普及も重要な課題として取り組んでいるところです。

その情報発信の一環として、当研究所のホームページ（HP）には、この NEWS 以外にも研究に関連する様々な情報を掲載しています。ここでは、当研究所（本所）の HP について改めて紹介させていただきます。

まず、「お知らせ」では、最新の研究成果のほか、研究所に関するその時々の特ピックスを随時掲載しています。「農林技術研究所の紹介」では、研究所紹介のパンフレット等をダウンロード出来ます。

「研究成果」からは、具体的な研究成果を分かりやすくまとめた「成果写真集」、「研究成果情報」、「研究報告」や技術を体系的にまとめて紹介する「あたらしい農業技術」などが PDF で入手可能です。

また、「お役立ち資料」には、きらび香の作期拡大技術等を取りまとめた「静岡イチゴ’きらび香’を用いた供給拡大技術マニュアル」、「施設園芸における高温対策の技術集」、「イチゴ「紅ほっぺ」の特性と栽培技術」等を掲載しています。更に、「品種と特許について」では、本県育成品種イチゴ「きらび香」の許諾手続きや等についても掲載しております。

当研究所では、生産現場の要望に的確に応えるため、今後も HP 等を通じて迅速に情報を発信し、得られた成果をいち早く生産者に還元するよう努めて参ります。

なお、今回紹介した本所以外に茶業、果樹、伊豆農業、森林・林業の各研究センターでもそれぞれの HP で情報発信に務めておりますので、こちらも合わせてご活用下さい。



研究所 HP の QR コード



静岡県

サイト内検索

検索 Q

検索の方法

防災・緊急情報

閲覧補助

Foreign language

ホーム

目的から探す

テーマから探す

組織から探す

県政情報

現在の位置: ホーム > 産業・しごと > 農林事務所・農林技術研究所 > 農林技術研究所

産業・しごと

農林事務所・農林技術研究所

- > 賀茂農林事務所
- > 東部農林事務所
- > 富士農林事務所
- > 中部農林事務所
- > 志太権原農林事務所
- > 中遠農林事務所
- > 西部農林事務所
- > 農林技術研究所
- > 農林技術研究所伊豆農業研究センター
- > 農林技術研究所 滋賀研究センター

農林技術研究所



4 いいね!

ページID1058658

更新日 2025年8月1日



大きな文字で印刷

お知らせ

- ▼ お知らせ
- ▼ 農林技術研究所の紹介
- ▼ お役立ち資料
- ▼ 競争的研究資金等に係る規程等について
- ▼ 交通アクセス
- ▼ 農林技術研究所ニュース
- ▼ 研究成果
- ▼ 品種と特許について(「きらび香」の許諾手続き等)
- ▼ 農林技術研究所公式SNS
- ▼ 病害虫防除所へのリンク

お知らせ

研究情報

ワサビ苗生産における暑熱対策



写真 忍野村におけるワサビ苗 生産ハウス

ワサビは、周年出荷・周年定植が行われており、年間を通じた苗の供給が必要です。しかし、ワサビは暑さに弱いため、夏の苗生産が困難で、秋に定植する苗の安定供給が課題となっています。これまでは北海道で夏の苗生産を行っていましたが、気温上昇や生産者の高齢化により生産ができなくなり、代わりとなる苗の生産体制の構築が必要となりました。

そこで、静岡県立大学と共同で育苗が可能となる環境条件（温度、湿度、光強度等）の調査を行いました。その結果、30℃以上になる時間が短く、昼夜の気温差が大きいたことが育苗可能な条件であり、目安として夜温が20℃以下である環境が必要であることが分かりました。

アメダス観測地点の温度データからこの条件の地点を探索したところ、苗生産が可能な地点は県内19か所中1か所、隣接する山梨県でも10か所中3か所と非常に限られていることが明らかになりました。これらの結果をもとに、現在は標高が950mある山梨県忍野村において、静岡県内の花生産者が利用していたハウスを利用し、ワサビ苗を生産する体制を生産者団体と連携し整えています。

しかし、近年は高標高地でも気温が上がり、今夏は最低気温が20℃を下回らない日が増えています。そのため、追加の対策として赤外線を効率的に防ぐ機能性遮光資材を利用した栽培方法の研究も進めています。

（農林技術研究所 伊豆農業研究センター わさび生産技術科 上席研究員 片井祐介）

研究情報

一番茶生育期での有機液肥施用による有機てん茶収量・品質の改善

有機栽培茶園で使用される有機質肥料は肥効にタイムラグがあり、速効的に肥効を示す資材が求められてきました。

有機液肥フィッシュソリュブルS（N:P:K=6.7:1.4:1.8）は、予備試験で速効性が認められたので、これを一番茶期に施用する現地試験を実施し、有機てん茶の一番茶の収量・品質に与える影響を評価しました。

この有機液肥を、一番茶萌芽期から8日後に雨落ち部へ高濃度少量散布（2.7kgN/10aまたは0.8kgN/10a、希釈濃度3～10倍、散布量56L/10a）し、散布後26日に各処理区の茶葉を摘採しました。

いずれの有機液肥散布区も、無散布区（現地慣行）に比べて一番茶収量が14～27%程度増加する傾向で、一番茶の摘芽重及び百芽重が有意に大きくなりました。

一番茶の成分では、有機液肥散布区は無散布区（現地慣行）に比べてクロロフィルが増加し、0.8kgN/10a施用区で全窒素、遊離アミノ酸、テアニン、カテキンが高まる傾向にありました。今後は有機液肥の適切な散布時期等を検討してまいります。（茶業研究センター 茶環境適応技術科 主任 内山道春）



写真 調製した有機液肥



写真 現地試験ほ場（一番茶被覆時）

開発編集・発行 静岡県農林技術研究所

〒438-0803 静岡県磐田市富丘678-1

TEL : 0538(36)1553 (企画調整部) FAX : 0538(37)8466 E-mail : agrikikaku@pref.shizuoka.lg.jp

URL : <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/index.html>